

第五回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録

対応の()内は回答者

会議の名称：第五回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

開催の日時：平成19年11月15日 午前10時～12時

開催の場所：鳥取県庁 特別会議室

出席者氏名：別紙出席者名簿のとおり

会議の概要：以下のとおり

1. 「評価の基本方針」について

委員	主な意見	対応
中村委員	「PDCA(plan-do-check-act)サイクルのチェック機能を担うもの」とあるが「 推進機能を担うもの 」としてはどうか？「PDCA」の「C=check」と紛らわしい。また、評価委員会はPDCAサイクルのチェックをするのでなく、PDCAサイクルを推進するもの。	事務局においてわかりやすい表現に修正のこと(千葉委員長)
	「法人の業務実施体制の高度化を図る」とあるが、「 活性化を図る 」としてはどうか？「高度化」という言葉は、スリム化 リストラを連想させる。	
辻委員	PDCAサイクルを回すのは法人、評価委員会はきちんと回っているかチェックするものだ認識	

2. 達成状況の5段階評価について

委員	主な意見	対応
中村委員	自己評価と評価委員の評価において、達成状況を記述する文言が統一されていることに賛成する。県民から見て判りやすい。文科省(国立大学法人の評価)の場合はそれらが微妙に違い、逃げ道となっている。	
谷口委員	文言が抽象的。達成状況を評価しやすいよう、具体的な事例を挙げて欲しい。(例：「5.特筆すべき～」「4.優れた～」の違いが不明確)	イメージしやすいよう、具体的な事例を考える。(事務局)
辻委員	どのような活動をしたときに4なのか、5なのか？ 産業技術センターが自己評価をするにあたって、その判断基準を作ってもらいと、評価しやすくなる	

3．産業技術センターの自己評価について

委員	主な意見	対応
中村委員	『「特筆すべき優れた実績を上げた取組」は特記事項として自己評価項目ごとに記載する』旨の記述があるが、小分類毎に記載するのは細かすぎる。中分類・大分類毎の記載か、もしくは別途特記事項を記載する欄を設けてはどうか。	後で全体を議論するとき、各委員の評価の判断基準の参考とすることができるので、評価項目（＝小分類）ごとに記述するほうがよいのではないか (千葉委員長)
谷口委員	物価変動等、外的要素で変動する成果をどの様に評価するのか。例えば企業では原油市場の高騰で、実質では昨年より努力しているのに経費が増えた、ということがある。	背景を説明した上での自己評価をすべき。(千葉委員長) 外的要因については、物価変動などである程度判断できると思う。(中山課長)
千葉委員長	いろいろな要因を検証し、説明を受けた時に疑問が生じたときはどうするか	自己評価の裏付けとなる資料も提出してほしい(中村委員) 県議会の決算審査等でもやってきたことであるので対応可能(岡村次長)
中村委員	産業技術センターの自己評価は、項目別評価だけで全体評価はしないのか	各項目別の自己評価を踏まえて、全体の報告をすることとなる。法人としての評価となるので最終的には理事長が行うこととなる。(徳村部長)

4．評価委員会の評価について

委員	主な意見	対応
千葉委員長	評価委員が自己評価に疑問がある場合はどうすれば良いか。	自己評価の裏付けとなる資料も提出してほしい(中村委員) 県議会の決算審査等でもやってきたことであるので対応可能(岡村次長)
中村委員	国立大学法人の場合は評価委員が現場に意見聴取に来る。	効率的な方法の案を事務局で考えてください。(千葉委員長)

5．項目別評価について

委員	主な意見	対応
千葉委員長	評価はどのように行うべきか。委員間で意見が異なる場合はどのように最終判断すべきか	最終的には全会一致で判断してもらうことが望ましい(事務局) 事前に各委員が項目を評価したものを平均化～評価が異なる委員の意見を聞く～話し合って合意、というプロセスが良い。(千葉委員長)
谷口委員	数値目標のある項目についてどのように評価するべきか。目標数値がどの程度の難易度なのか。目標を達成して当然という程度なのか。	現在の目標数値はかなり高く設定している。(中村委員) 法人化したのだから、ある程度高い目標設定をすべき。(谷口委員) 目標の達成の難易度についても提示すること、客観性が担保される情報を提示すること(千葉委員長)
辻委員	重要な項目と重要でない項目とあると思うが、ウェイト付けをしないとイケないのではないか。	事務局において案を作成

	大項目についてのウェイト付けはいら ないと思うが、案1レベルであれば必要 になるのではないか	
中村委員	自己評価及び評価委員の項目別評価は 案1で行い、それを参考に全体評価（総 評+3つの視点）を行うこととしてはど うだろうか	了解（全委員）
	資料2の項目の番号の振り方は統一して 欲しい。（例：I 1（1））	事務局で対応

6．全体評価について

委 員	主な意見	対 応
千葉委員長	全体評価はどのようなプロセスで行う べきか。各委員が文章を書き委員長がそ れをまとめるか、もしくはその逆に委員 長が案を出し各委員が修正するのか、い ろいろ方法が考えられるが、事務局から 案を出すこととしたい。	各員が簡単なコメントを提出し、委員長 が全体を膨らませる。それに対し、各員 が議論、という手順で実施
中村委員	全体評価は県民の目に最も触れるとこ ろ。ボリュームを抑えて読み易いよう に。鳥取大学の場合は4ページ程	
千葉委員長 副井委員	「利用者の意見を踏まえ」とあるが、評 価委員はどうやって利用者の意見を踏 まえたことを担保するのか。	企業からのアンケート、聞き取り等の 方法を考える（事務局） 産業技術センターが行うアンケート も参考にすることができる。企業から生 の声をヒアリングする方法も考えられ る（岡村次長） 事務局で検討のこと（千葉委員長）
中村委員	全体評価にあたり5段階 10段階評価 にする際に単純に2倍にするのではなく、 2倍マイナス1とし、特筆すべき事項が ある場合は1段階上下させることにすべ き。単純な2倍方式だと、5段階で3（平 均）だったものが、10段階で6（平均以 上）になってしまう。同様に5だったも のは10になってしまい、自動的に最高 評価になってしまうため。	10段階にする方法については別途検討 する（千葉委員長）

7．評価の進め方について

委 員	主な意見	対 応
千葉委員長	評価に係る委員会の開催は今後3回に 抑える。遠方から出席する委員もいるの で、事前準備はしっかりやって開催回数 を減らす。次回開催は3月。	

8. 決定事項、確認事項等

(1) 決定事項

評価のプロセスについて

- ・法人の業績評価の手順については、**法人の自己評価作成(法人)**、**各委員の評価案作成(委員)**、**各委員の評価案のとりまとめ(事務局)**、**評価原案作成**、**委員会における委員間の評価差調整**、**法人評価の不明点の確認**、**最終評価案の作成**、の順に実施。
- ・評価原案(全体評価)については、各委員から提出されたコメントをもとに、委員長が作成する。
- ・最終評価案に対して、**法人から意見聴取後**、**評価を決定することとする**。
- ・各委員が事前に評価作成をすること、事務局において各委員の評価をとりまとめること等の事前準備を行うことにより、委員会では、委員間の評価差の調整、法人評価の不明点の確認等に論点を絞ることにより、効率的な委員会運営を行い、3回程度の開催により評価を行う。

評価の対象項目について

- ・項目別評価は、**資料2に示す案1のレベルにおいて**、**法人の自己評価**、**委員の評価を行うものとする**。
- ・全体評価については、**項目別評価の内容を踏まえながら**、**総評+3つの視点**(中小企業への技術支援、法人の業務運営及び財務状況、中期目標・中期計画の達成に向けた課題等)について記述する。

(2) 事務局対応案件

「評価の基本方針」について、わかりやすい表現に変更すること

5段階評価のそれぞれの評価レベルについて、評価レベルをイメージしやすいように具体的な事例を考えること

法人の自己評価について、客観性を担保するために評価の裏付けとなる資料についても提出すること

物価変動など、外的要素で変動する成果を評価するために、その判断材料を準備すること

各評価項目について、重要な項目と重要でない項目のウェイト付けをすること

各目標について、目標達成の難易度がわかる資料を提出のこと

「利用者の意見」について、その反映方法について整理のこと

第五回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会 出席者名簿

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名
委員長	千葉 雄二	財団法人とっとり政策総合研究センター	調査研究ディレクター
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長
委員	中村 宗和	国立大学法人鳥取大学	名誉教授
委員	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長補佐
委員	辻 智子	株式会社ファンケル	執行役員総合研究所長

【地方独立行政法人】

氏名	役職名
徳村 純一郎	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部長
門脇 互	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部企画担当参事

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名
岡村 整諮	商工労働部次長
中山 孝一	商工労働部産業開発課長
寺杣 祐以	商工労働部産業開発課産学金官連携室主事